

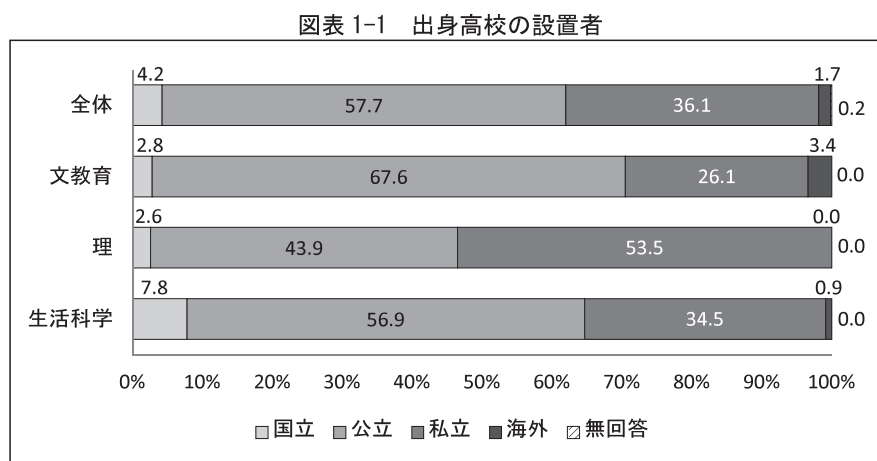
第 1 章 「新入生調査」の結果報告

(1) 出身高校

新入生の出身高校について、①設置者、②種類、③学科、④所在地から示していく。

①設置者

出身高校の設置者について、「国立」「公立」「私立」に「海外」を加えて示したものが図表 1-1 である。

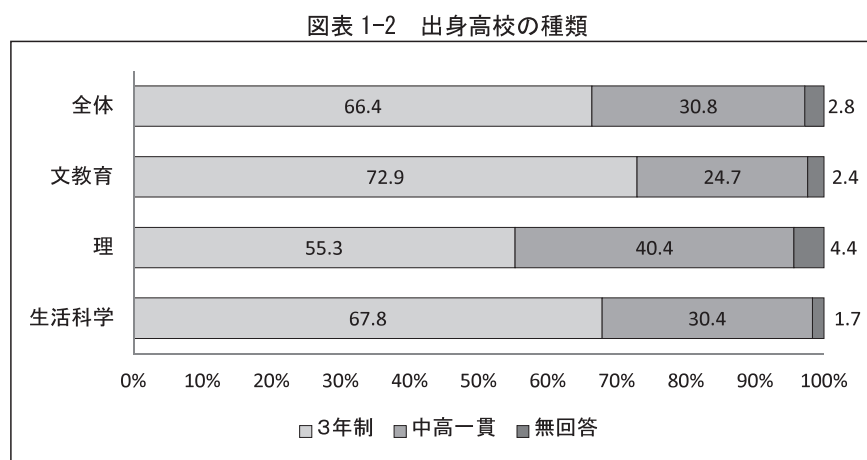


全体でみると、公立高校出身者 57.7%、私立高校出身者 36.1%、国立高校出身者 4.2% であった。平成 24 年度新入生に比べると、公立高校出身者が 5.6 ポイント減り、私立高校出身者が 4.3 ポイント増えている（お茶の水女子大学 2012, P4 参照）。

学部別にみると、理学部では公立高校出身者の割合が低く、およそ半数に過ぎない。この結果は平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P4 参照）。

②種類

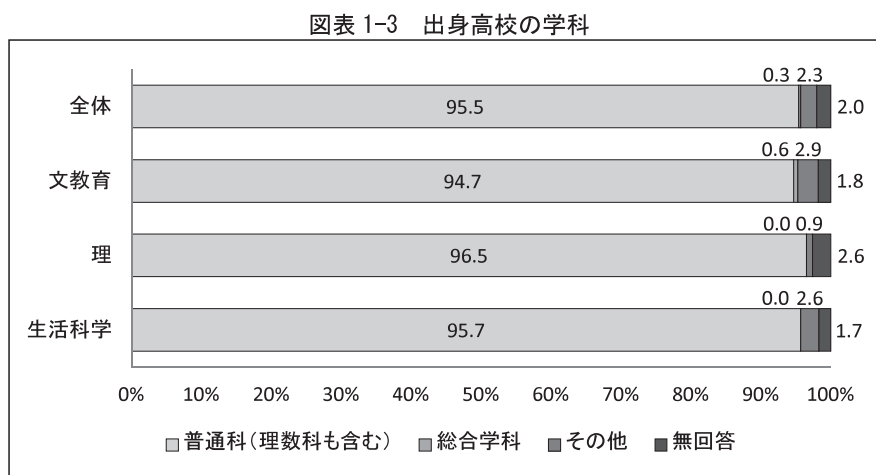
出身高校の種類について、「3 年制」「中高一貫」別に示したものが図表 1-2 である。



全体でみると、3 年制高校出身者 66.4%、中高一貫校出身者 30.8% であった。学部別にみると、3 年制高校出身者の割合は理学部で低い。これらの結果は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P4-5 参照）。

③学科

出身高校の学科について、「普通科（理数科も含む）」「総合学科」「専門学科」「その他」別に示したものが図表 1-3 である。



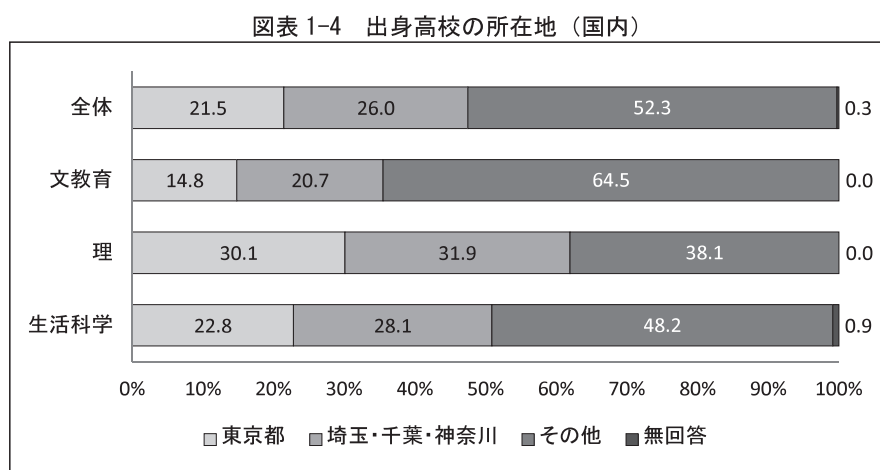
全体の 95.5%が普通科出身者であり、学部別にみても大差はみられない。平成 24 年度新入生においても 95.5%が普通科出身者であり、学部別にみても、今年度新入生の結果と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P5 参照）。

平成 24 年度学校基本調査によれば、高等学校（本科）のうち、普通科の生徒は 72.4%であり、本学新入生の普通科出身者の割合とは大きな隔たりがみられる。

④所在地

出身高校の所在地について「国内」「海外」別に尋ねた結果、全体の 97.3%が国内の高等学校出身者であり、学部別にみても大差はみられなかった。

さらに「国内」と回答した者を対象に、その高校が所在する都道府県について「東京都」「埼玉・千葉・神奈川」「その他」別に示したものが図表 1-4 である。



全体の 21.5%が本学の所在する東京都に所在する高校出身者であり、平成 24 年度新入生の結果と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P5-6 参照）。

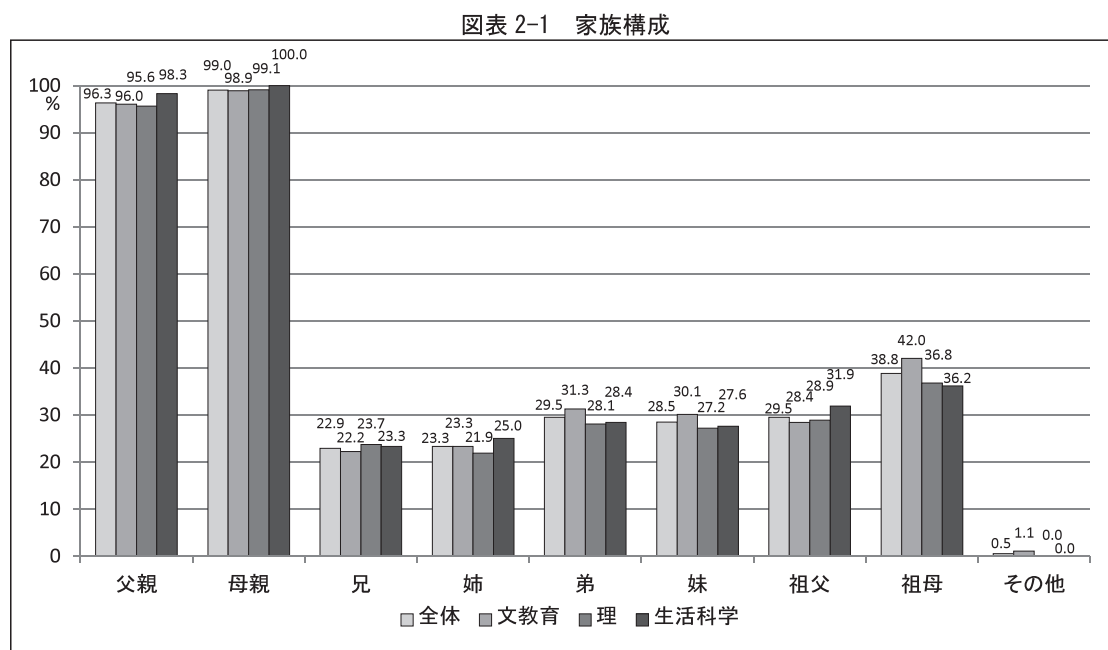
ただし、平成 24 年度新入生では学部別による大きな差異はみられなかったが（お茶の水女子大学 2012, P5-6 参照）、今年度新入生では、文教育学部と理学部で「東京都」「埼玉・千葉・神奈川」といった自宅からの通学可能性が高い地域の高校出身者の割合が 26.5 ポイント開いている。

(2) 家族構成

本節では、本学新入生の家族構成について、①家族の構成、②兄弟姉妹の構成、③出生順位、④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数、⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数から示していく。

①家族の構成

本学新入生の家族構成について、「父親」「母親」「兄」「姉」「弟」「妹」「祖父」「祖母」「その他」から、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 2-1 である。

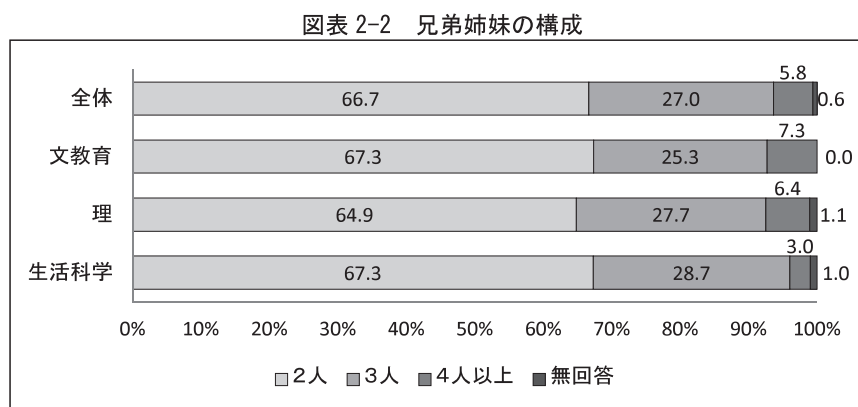


全体でみても、学部別にみても、平成 24 年度新入生と大差はみられない（お茶の水女子大学 2012, P7 参照）。

また、全体でみると、兄弟姉妹がいない「一人っ子」は 15.2%であった。平成 24 年度新入生では 13.5%であり、大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P7 参照）。

②兄弟姉妹の構成

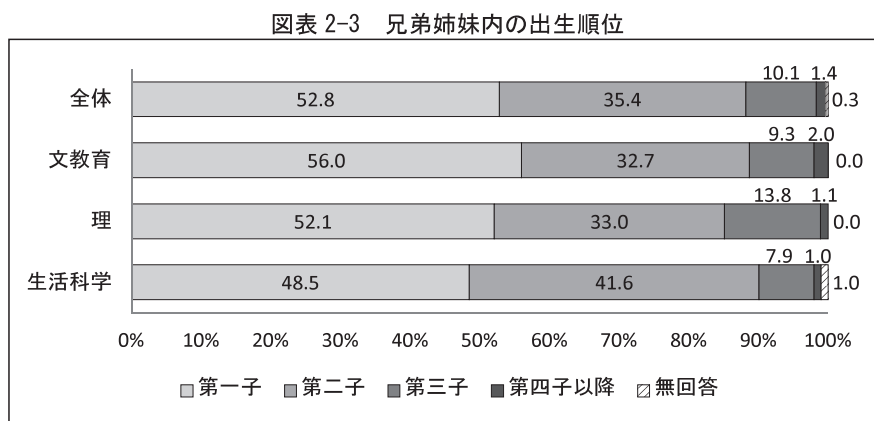
「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者（本学新入生の 84.8%が該当）に対し、その人数（自分も含めて）を尋ねた結果が図表 2-2 である。



全体でみると、「2人」が66.7%と最も多く、次いで「3人」が27.0%であり、平成24年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2012, P7-8 参照）。

③兄弟姉妹がいる中での出生順位

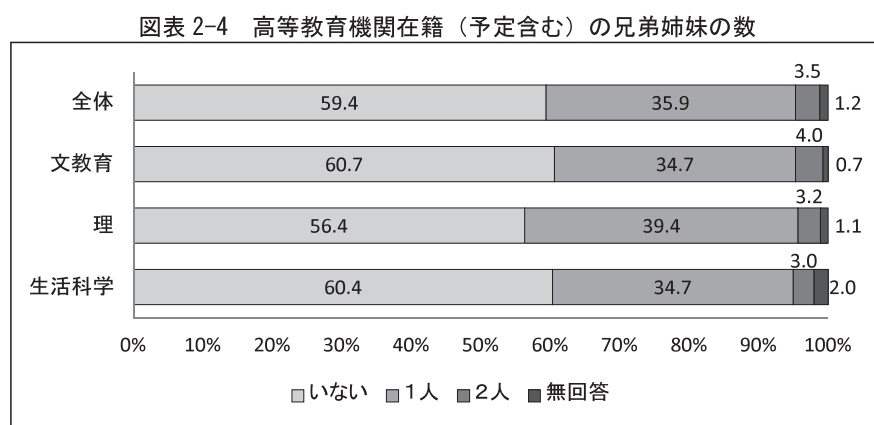
図表 2-3 は、「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者に対して、その構成内での出生順位について尋ねた結果である。



全体でみると、「第一子」は52.8%であり、「一人っ子」が15.2%であること考え合わせると（P6 参照）、本学の新入生は、全体の68.0%が第一子であることがわかる。平成24年度新入生でも67.8%が第一子であり、今年度新入生の結果と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学2012, P8）。

④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-4 は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数を尋ねた結果である。

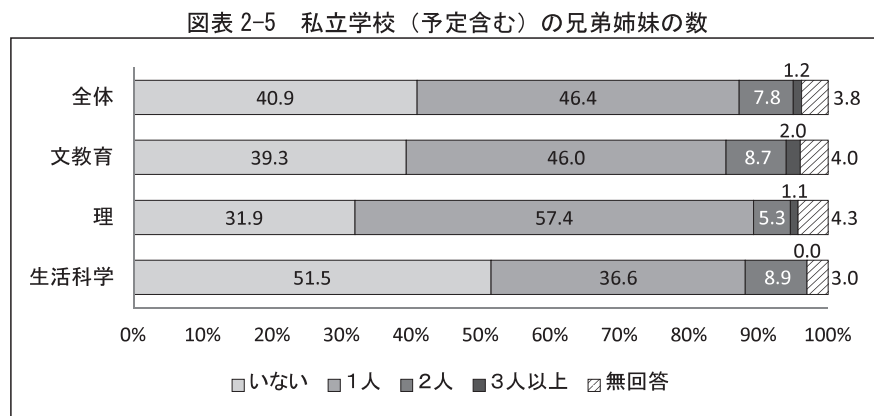


全体の35.9%が「1人」、3.5%が「2人」であり、平成24年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2012, P8 参照）。

平成24年度新入生では、高等教育機関に在籍する（予定含む）兄弟姉妹が、回答者以外にいる割合は生活科学部で高いことが示されていたが（お茶の水女子大学2012, P8 参照）、今年度新入生では学部による大きな違いはみられなかった。

⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-5 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数について尋ねた結果である。



全体の 46.4%が「1 人」、7.8%が「2 人」、1.2%が「3 人以上」であり、平成 24 年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学 2012, P9 参照）。

学部別にみると、生活科学部での「いない」の割合の高さが目立っており、理学部とは 19.6 ポイントの開きがみられる。

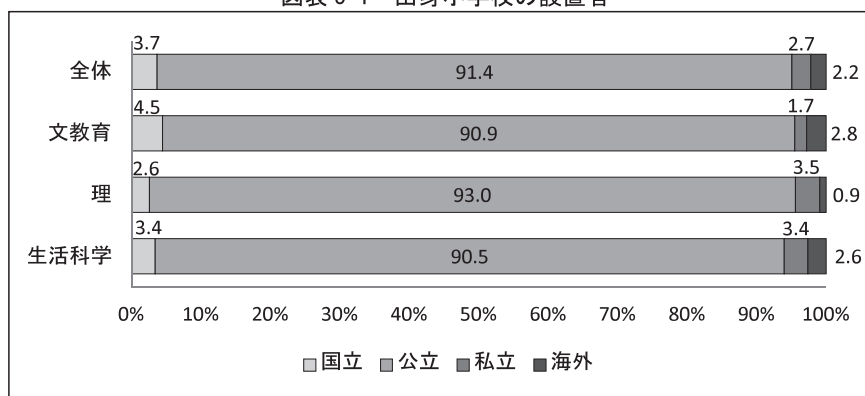
(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、本学新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①出身小学校・中学校の設置者、②これまでの受験経験、③本学の受験を決めた時期、④本学の志望の度合い、⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと、⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動から示していく。

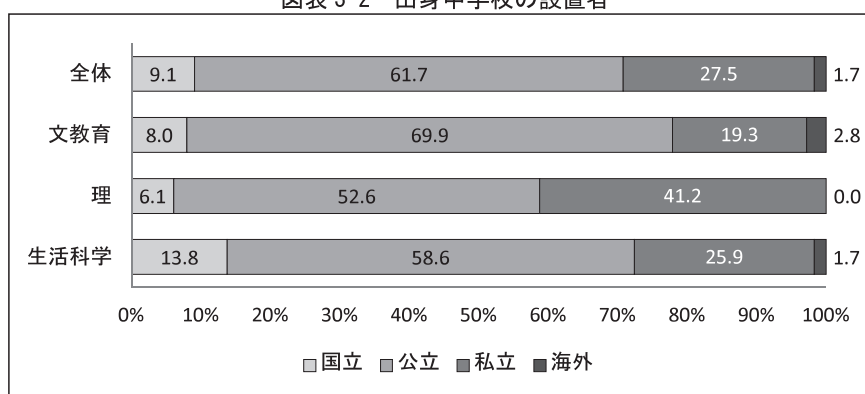
①出身小学校・中学校の設置者

図表 3-1 は出身小学校の設置者について、図表 3-2 は出身中学校の設置者について、それぞれ「国立」「公立」「私立」「海外」別に尋ねた結果である。

図表 3-1 出身小学校の設置者



図表 3-2 出身中学校の設置者

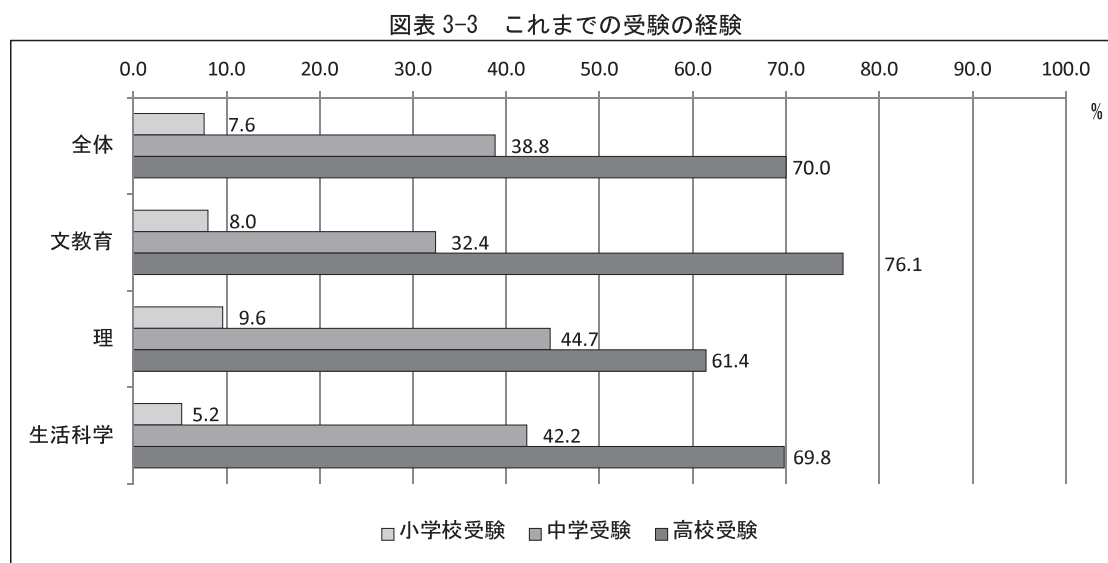


全体でみると、公立小学校出身者が 91.4%、公立中学校出身者が 61.7%と最も多く、小学校では「国立」「私立」、中学校では「私立」「国立」がそれに続いている。公立校出身者の割合は、小学校、中学校ともに、平成 24 年度新入生より高くなっている（お茶の水女子大学 2012, P15 参照）。

学部別にみると、小学校ではいずれの設置者においても大差がみられないが、中学校では理学部と文教育学部で差異が目立ち、私立中学校出身者は両方で 21.9 ポイントの開きがみられる。

②これまでの受験経験

図表 3-3 は、小学校・中学校・高校のそれぞれに入学するための受験の経験について、複数回答可として尋ねた結果である。

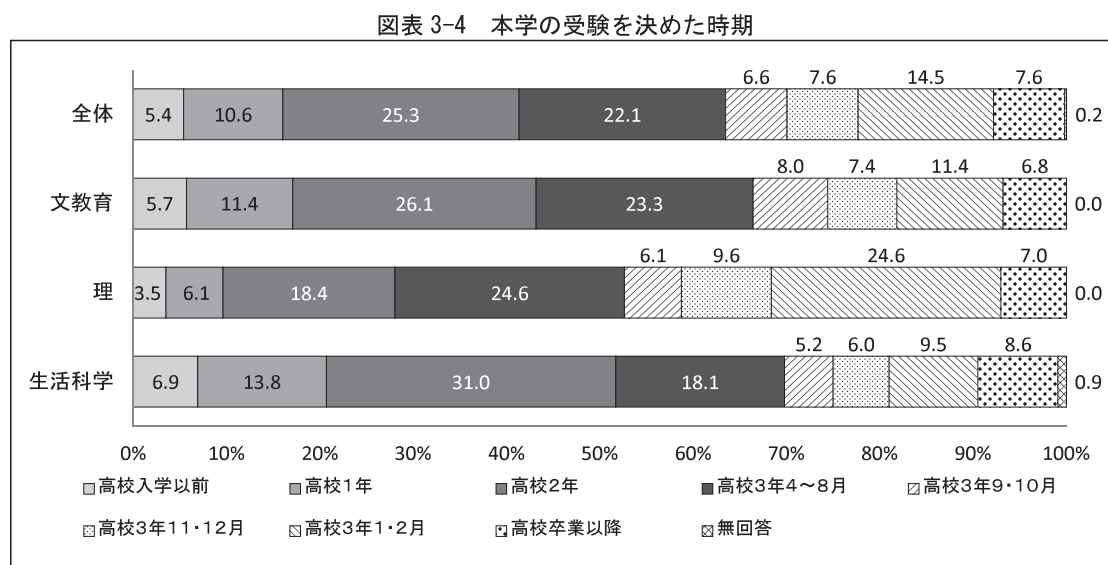


全体の 7.6%が小学校受験を経験し、38.8%が中学受験を経験しているなど、早期での受験経験者も多いことが示されている。こうした傾向は平成 24 年度新入生でも同様にしめされている（お茶の水女子大学 2012, P15-16 参照）。

Benesse 教育研究開発センターが 2012 年に実施した「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター 2013, P150）、中学受験経験率 27.8%であり、本学新入生の受験経験状況とは隔たりがみられる。

③本学の受験を決めた時期

本学の受験を決めた時期について、「高校入学以前」「高校 1 年」「高校 2 年」「高校卒業以降」に加え、「高校 3 年」に関しては、その時期を「4～8 月」「9・10 月」「11・12 月」「1・2 月」に分けて尋ねた結果が図表 3-4 である。

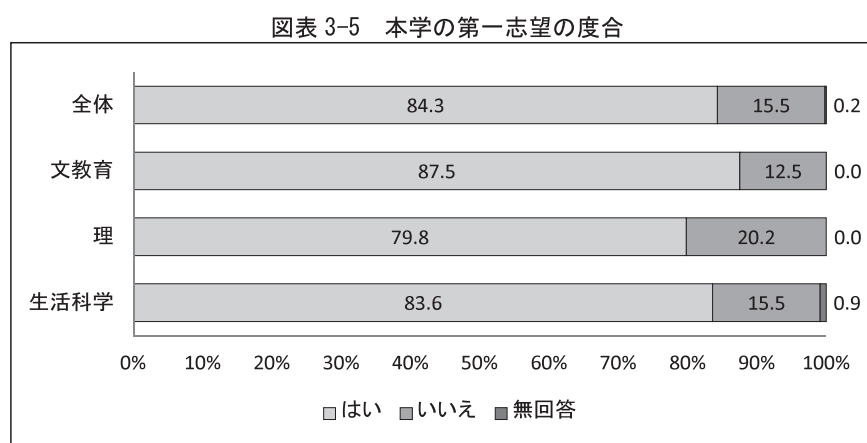


全体で見れば、平成 24 年度新入生同様（お茶の水女子大学 2012, P12 参照）、今年度の新入生も「高校 2 年」が 25.3%と最も多く「高校 3 年 4～8 月」がそれに続いている。

ただし学部による差異がみられ、理学部では、「高校 3 年 1・2 月」が「高校 3 年 4～8 月」と同じく 24.6%と最も多く、センター試験の結果をみてから、本学の受験を決めた学生も少なからずみられる。その一方、生活科学部では高校 2 年までに本学の受験を決めた学生が半数を超えている。こうした傾向は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P12 参照）。

④本学の志望の度合い

図表 3-5 は、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果である。



全体で見ると 84.3%の新入生が本学を第一志望としており、平成 24 年度新入生と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P12 参照）。

学部別にみると、平成 24 年度新入生では、理学部が他学部と比べると第一志望の割合が 15 ポイント以上低い結果であったが（お茶の水女子大学 2012, P12 参照）、今年度新入生では、他学部より低いものの、大きな違いはみられない結果となっている。

⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在（調査時期の大学入学前年度 3 月）までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-6 である。

図表 3-6 高校卒業から現在までの間に経験したこと

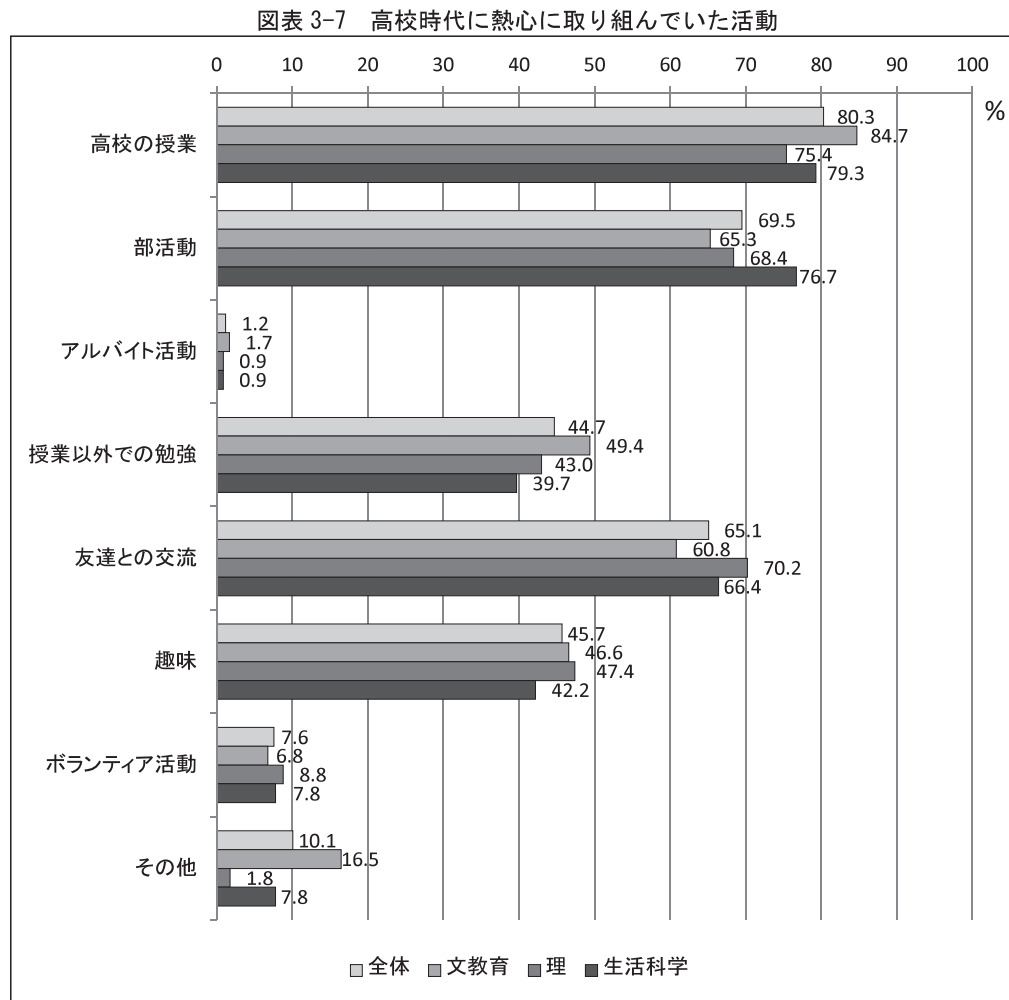
	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	1.0	0.0	13.8	0.2	77.4	8.4
文教育	1.1	0.0	10.8	0.6	82.4	6.3
理	0.0	0.0	15.8	0.0	75.4	8.8
生活科学	1.7	0.0	15.5	0.0	72.4	11.2

「浪人した」以外の項目は、いずれもごくわずかな経験率であり、学部別にみても同様の結果であった。平成 24 年度新入生でも同様の結果が示されている（お茶の水女子大学 2012, P18-19 参照）。

⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動

図表 3-7 は、高校時代に熱心に取り組んでいた活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「高校の授業」が 80.3%と最も多く、それに「部活動」「友達との交流」が 6 割を超えて続いている。この順は、平成 24 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2012, P19 参照）。

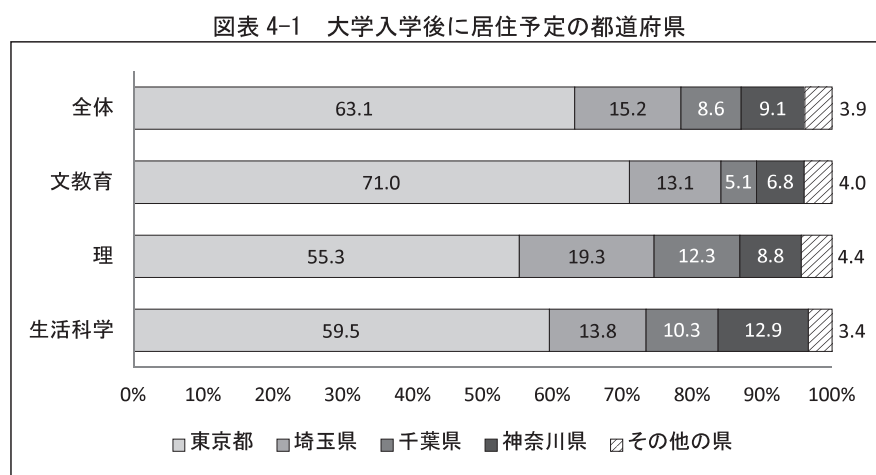


(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、本学新入生の大学入学後の生活の予定について、①大学入学後の居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧奨学金・学費免除制度の認知、⑨本学の学生寮に対する認知、⑩大学生活での不安・心配事、⑪本学の学生支援活動への期待から多面的に示していく。

①大学入学後に居住予定の都道府県

図表 4-1 は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。



全体でみると、「東京都」が 63.1%と最も多く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」と続いている。この順は、平成 24 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2012, P20 参照）。

先に、本学新入生のうち、「東京都」の高校出身者は 21.5%であることを示したが（図表 1-4 参照）、本学新入生の 63.1%が「東京都」に居住予定であることから、親元を離れて本学に通学する予定の学生が多いと考えられる。この傾向は、文教育学部で顕著に示されている。

これらの点からも、本学では、学内での支援のみならず、学外での生活等も視野に入れた支援が必要であるだろう。

②大学入学後の住居の予定

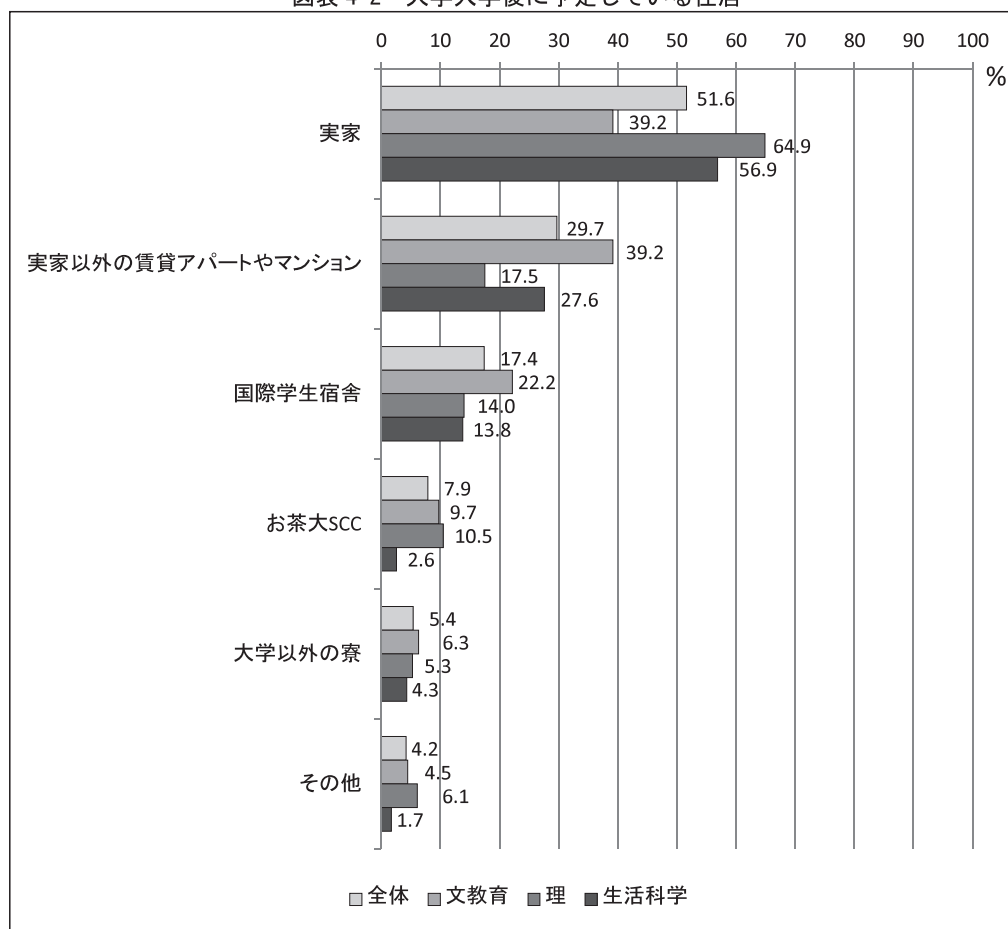
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC¹」、「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「実家」が 51.6%と過半数を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」といった学生寮が続いている。この順は、平成 24 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2012, P20-21 参照）。

学部別にみると、文教育学部では「実家」が他学部に比べて低く、4 割に満たない結果となっている。

¹ 学部 1・2 年生を対象として、平成 23 年 3 月に完成した新しい学生寮である。「SCC」は、Students Community Commons の略で、学生が共に生活し、共に成長する場所をあらわしている。詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/gss/ochadaiscc/concept/index.html>

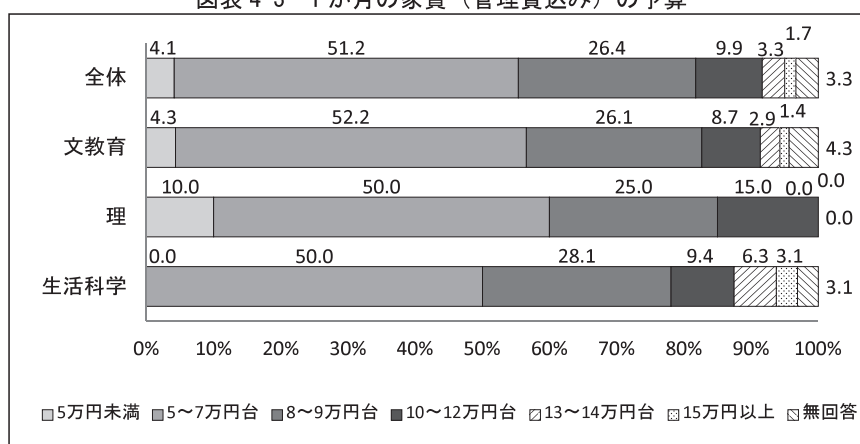
図表 4-2 大学入学後に予定している住居



③1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

図表 4-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

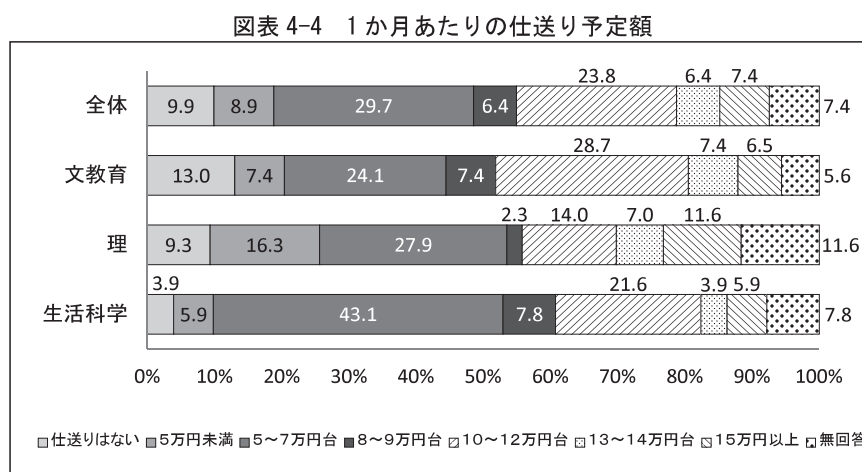


全体でみると、「5～7 万円」が 51.2%と最も多く、次いで「8～9 万円」が続いており、両者を合わせるとおよそ 8 割の学生が 1 か月の家賃として 5～9 万円を予定していることがわかる。平成 24 年度新入生もほぼ同様の状況であった（お茶の水女子大学 2012, P21-22 参照）。

なお、全国の大学生を調査対象とした「第 48 回 学生生活実態調査の概要報告」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2013）、下宿生の 1 か月の住居費平均は 53,420 円であった。

④1 か月あたりの仕送り予定額

図表 4-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。



平成 24 年度新入生は、「10～12 万円」が 29.4%と最も多く、次いで「5～7 万円」「15 万円以上」が続いていた（お茶の水女子大学 2012, P22 参照）。しかし今年度の新入生では、「5～7 万円」が 29.7%と最も多く、「10～12 万円」がそれに続く結果となっている。

さらにいえば、「仕送りはない」「5 万円未満」がそれに続く結果となっており、「仕送りはない」が全体のおよそ 1 割を占めている。

なお「第 48 回 学生生活実態調査の概要報告」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2013）、下宿生のうち、仕送り「10 万円以上」は 30.3%であり、この 10 年でほぼ半減している。その一方で、仕送り「0」の割合は 10.0%と 4 年連続 1 割を超えており、5 万円未満層も 26.8%と増加傾向にある。

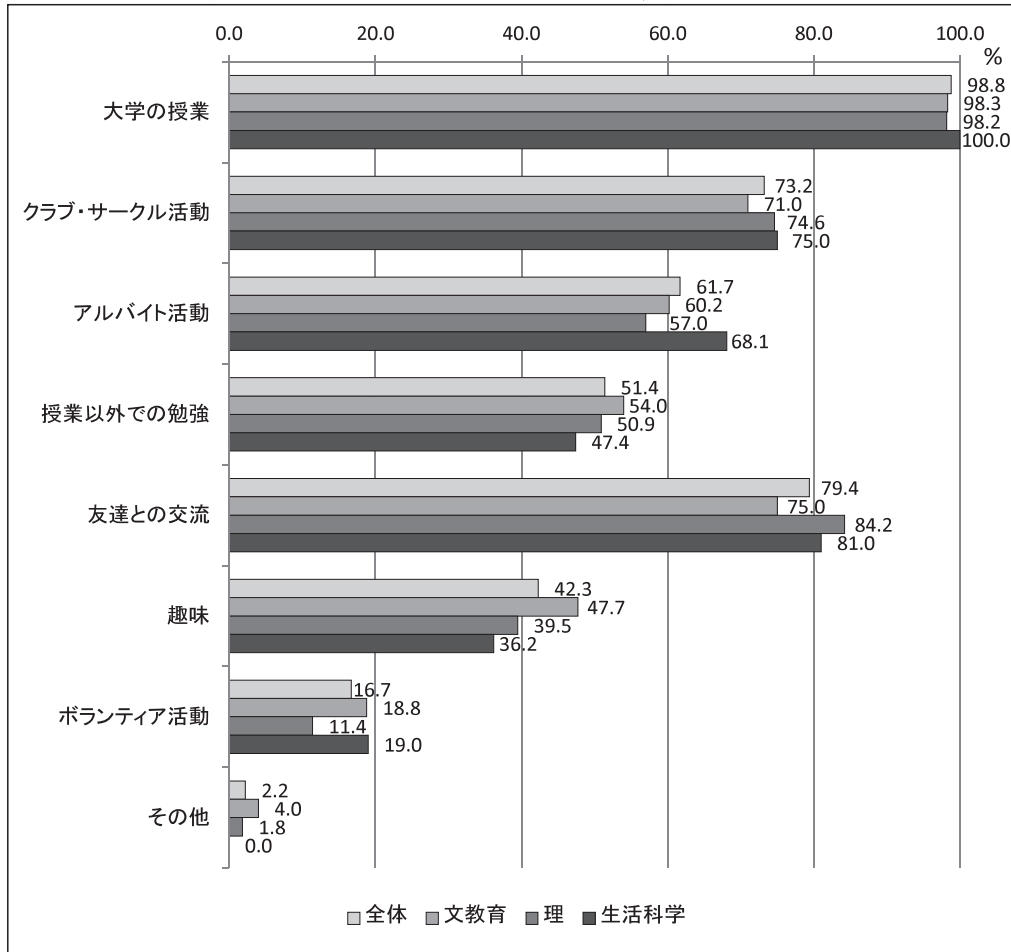
⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 は、大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

全体で見れば、「大学の授業」が 98.8%に及んでおり、大多数の新入生が「大学の授業」を頑張ろうと思っていることがわかる。この結果は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P22-23 参照）。

それに続き、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」が全体の 7 割を超えている。この結果も、平成 24 年度新入生で同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P22-23 参照）。

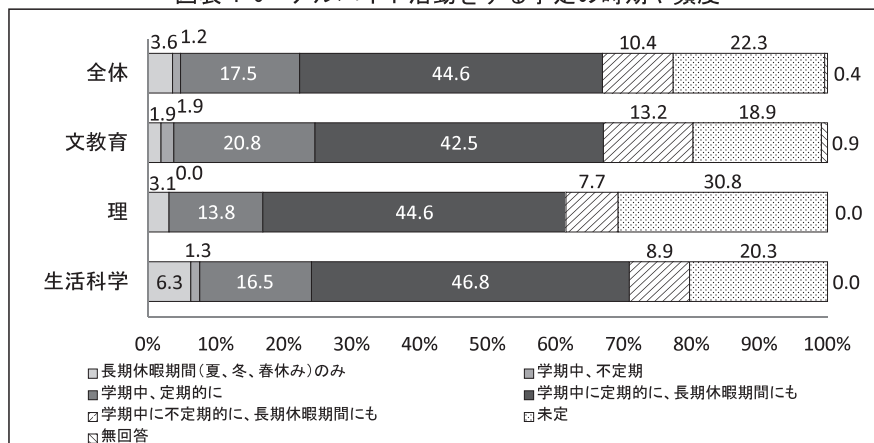
図表 4-5 大学に入学後、特にこの１年で頑張ろうと思う活動



⑥アルバイト活動の予定

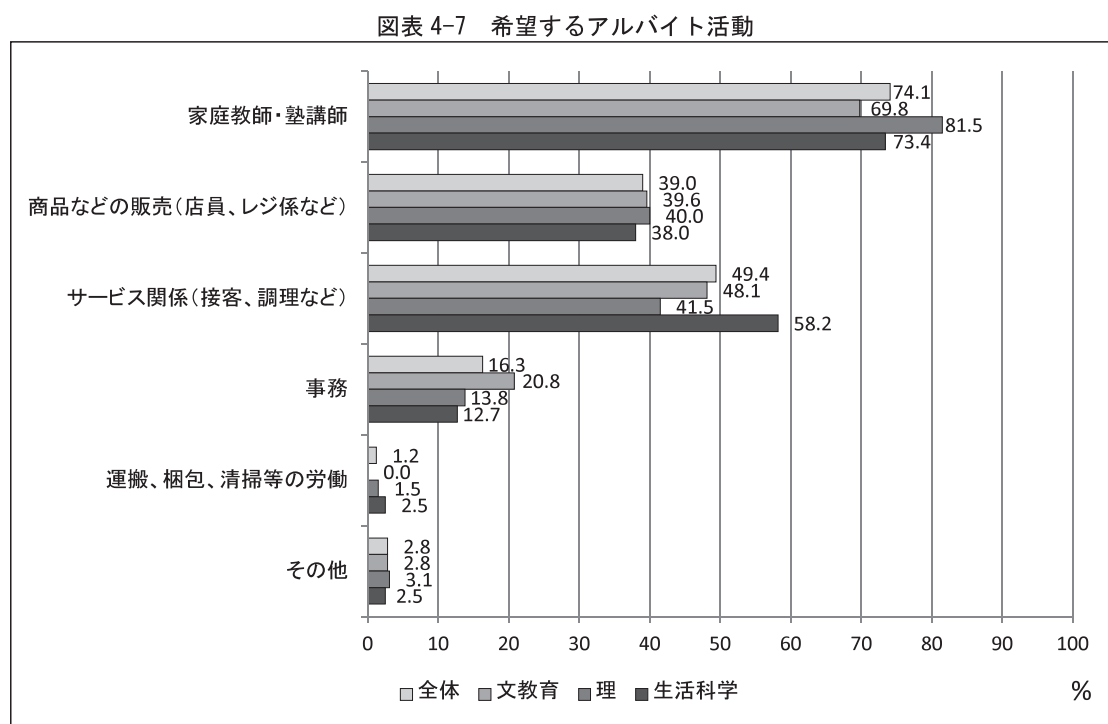
図表 4-6 は、大学入学後のアルバイト活動をする予定の時期や頻度について、アルバイト活動をする予定のある者に対して尋ねた結果である。

図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度



全体でみると、「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」が最も多く 4 割を超えている。平成 24 年度新入生でも同様の結果が示されている（お茶の水女子大学 2014b, P23 参照）。

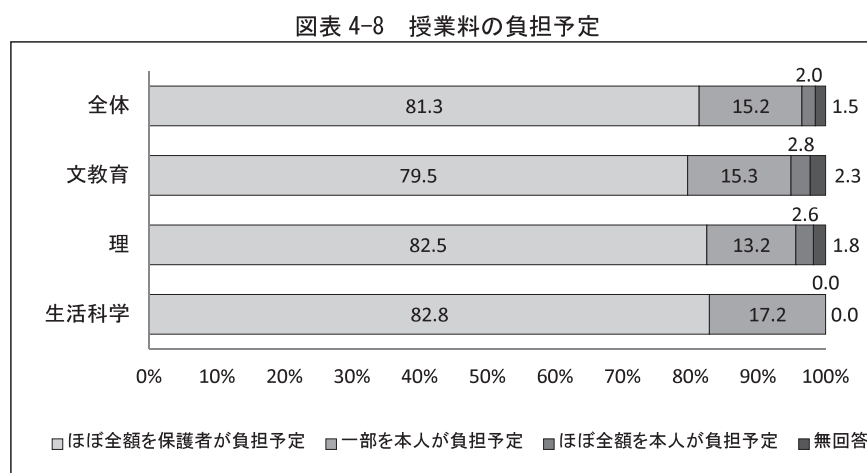
さらに、希望するアルバイト活動について、アルバイト活動をする予定のある者に対して、複数回答可として尋ねた結果が図表 4-7 である。



全体で見ると、「家庭教師・塾講師」が最も多く 7 割を超えており、「サービス関係」「商品などの販売」がそれに続いている。平成 24 年度新入生でも同様の順であった（お茶の水女子大学 2012, P24 参照）。

⑦授業料の負担予定

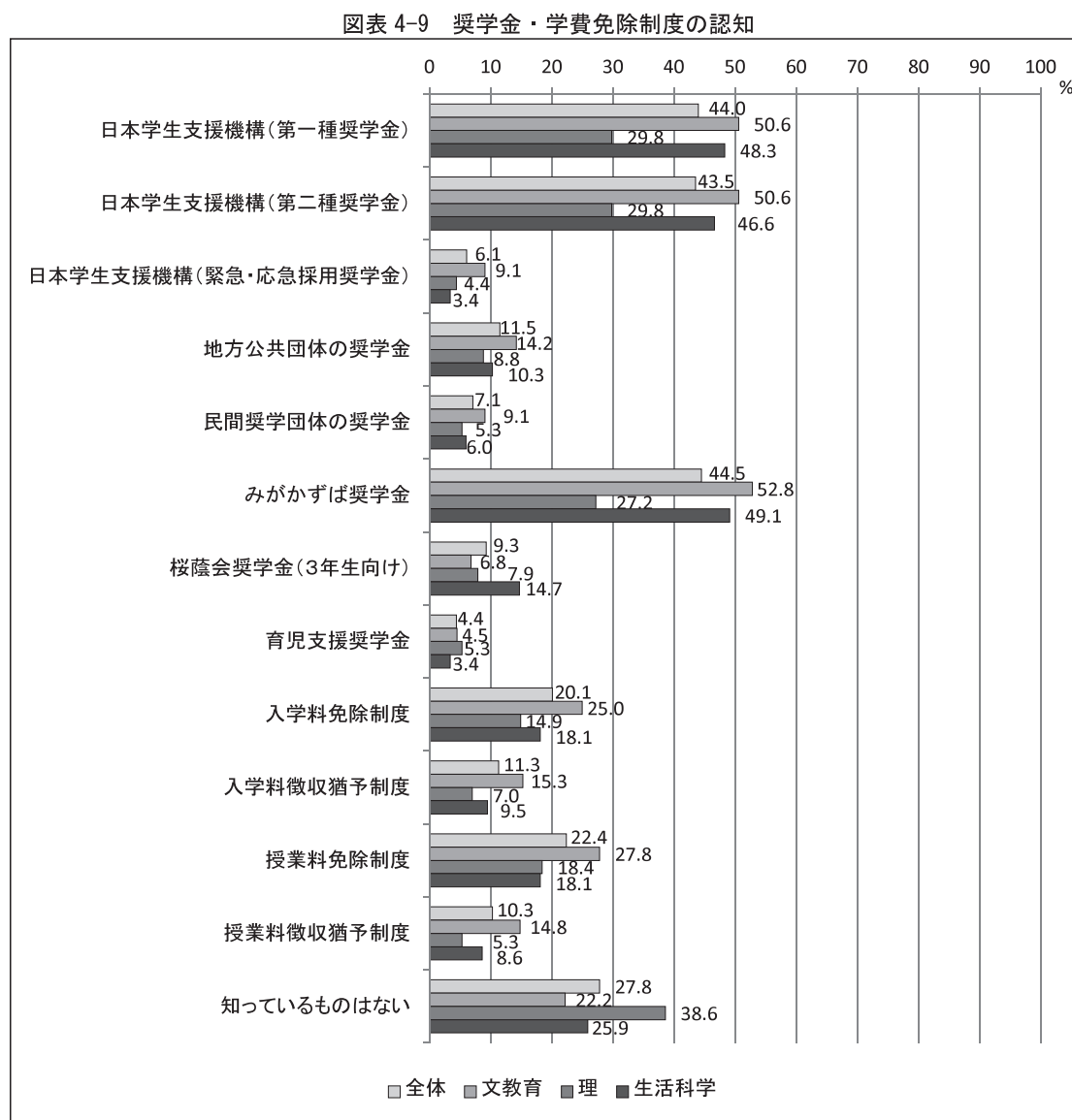
図表 4-8 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。



平成 24 年度新入生同様、いずれの学部においても「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 8 割を超えており、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は極めて少ない結果となった（お茶の水女子大学 2012, P24-25 参照）。

⑧奨学金・学費免除制度の認知

図表 4-9 は、奨学金・学費免除制度の認知について、本学独自の制度も含め、複数回答可として尋ねた結果である。



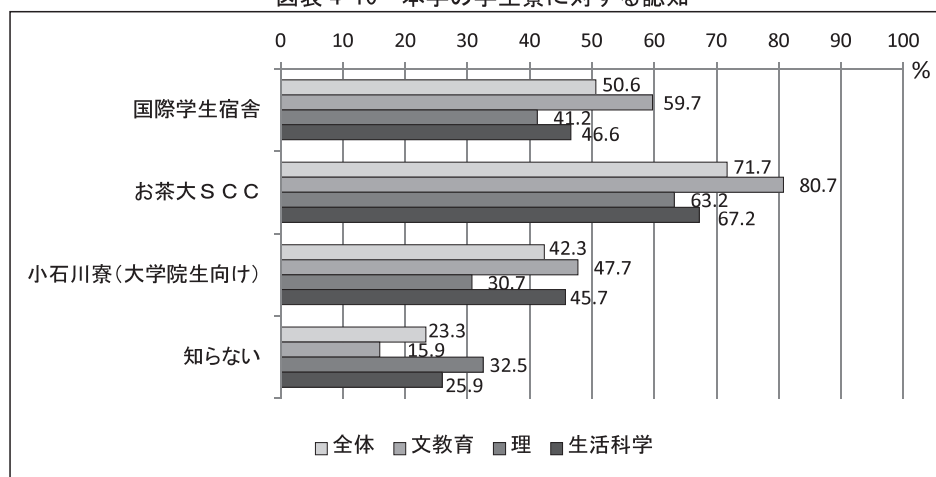
全体でみると、日本学生支援機構による奨学金の認知率は、第一種・第二種ともに、他に比べて高く 4 割を超えている。この結果は、平成 24 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P25 参照）。ただし学部別にみると、理学部では第一種・第二種ともに 3 割程度と、他学部とは 20 ポイントほどの開きがみられる。

特筆すべきは、本学独自の奨学金として、一昨年度よりスタートした予約型奨学金制度である「みがかずば奨学金」であり、全体の 44.5%、文教育学部や生活科学部ではおよそ半数が認知している。平成 24 年度新入生の認知率は全体の 39.0%であり、その拡がりも示されている（お茶の水女子大学 2012, P25 参照）。

⑨本学の学生寮に対する認知

本学には、国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（1・2 年生対象）、小石川寮（院生対象）がある。図表 4-10 は、これらの本学の学生寮に対する認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-10 本学の学生寮に対する認知



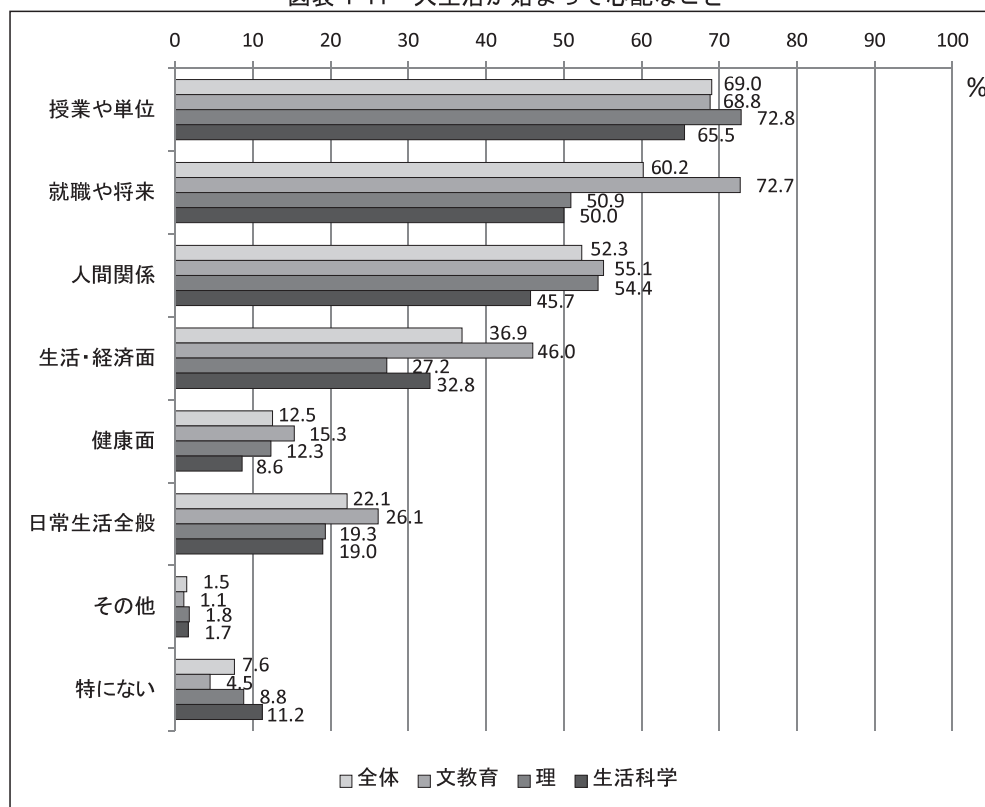
全体でみると、「お茶大 SCC」が 7 割、「国際学生宿舎」が 5 割を超えており、平成 24 年度新入生でもほぼ同様の結果が示されている（お茶の水女子大学 2012, P26 参照）。実家からの通学予定率が低いこともあり（図表 4-2 参照）、学部別にみると、いずれの寮でも文教育学部での高さが目立つ。

その一方で「知らない」は全体の 23.3%、理学部では 32.5%にも及んでおり、平成 24 年度新入生でも同様の結果が示されている（お茶の水女子大学 2012, P26 参照）。

⑩大学生活での不安・心配事

図表 4-11 は、全国大学生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 4-11 大生活が始まって心配なこと

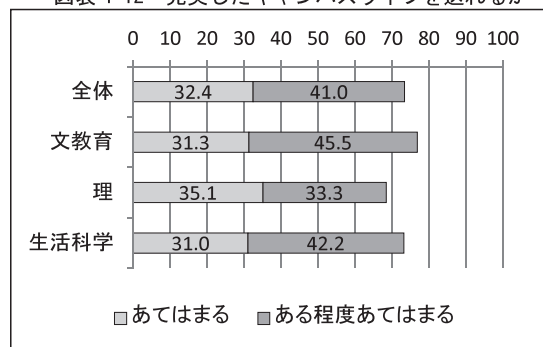


全体でみると、「授業や単位」「就職や将来」が6割を超えており、それに「人間関係」が続く結果となっている。こうした傾向は、平成24年度新入生でもみられる（お茶の水女子大学2012, P26-27 参照）。

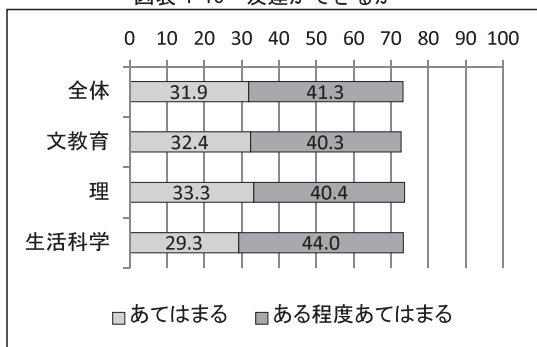
学部別にみると、文教育学部での「就職や将来の」高さが際立っている。他学部に比べて20ポイント以上高く、その不安の大きさがうかがえる。

さらに、大学入学後の不安や心配事に関する8項目を設定し、それぞれについて4件法で尋ねたところ、全体での該当率（「あてはまる」＋「ある程度あてはまる」）が70%を超えている項目は以下の5項目であった（図表4-12から図表4-16）。

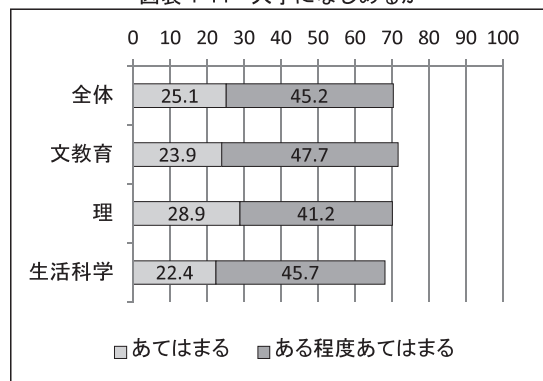
図表 4-12 充実したキャンパスライフを送れるか



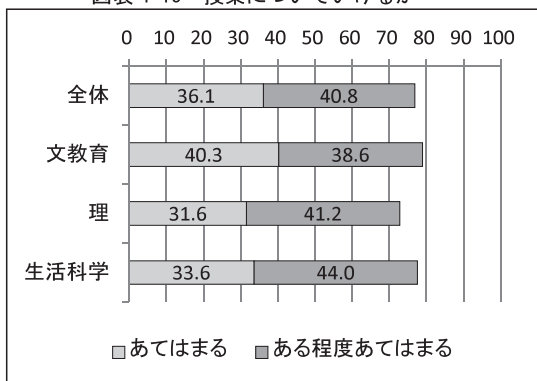
図表 4-13 友達ができるか



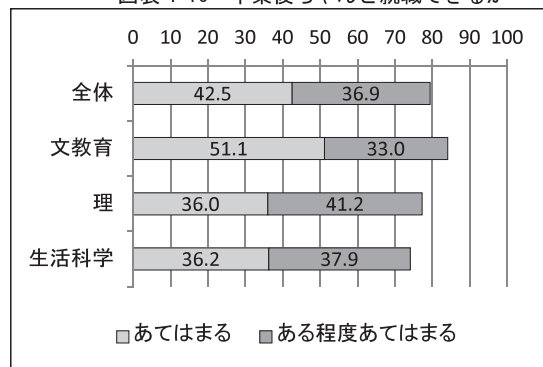
図表 4-14 大学になじめるか



図表 4-15 授業についていけるか



図表 4-16 卒業後ちゃんと就職できるか

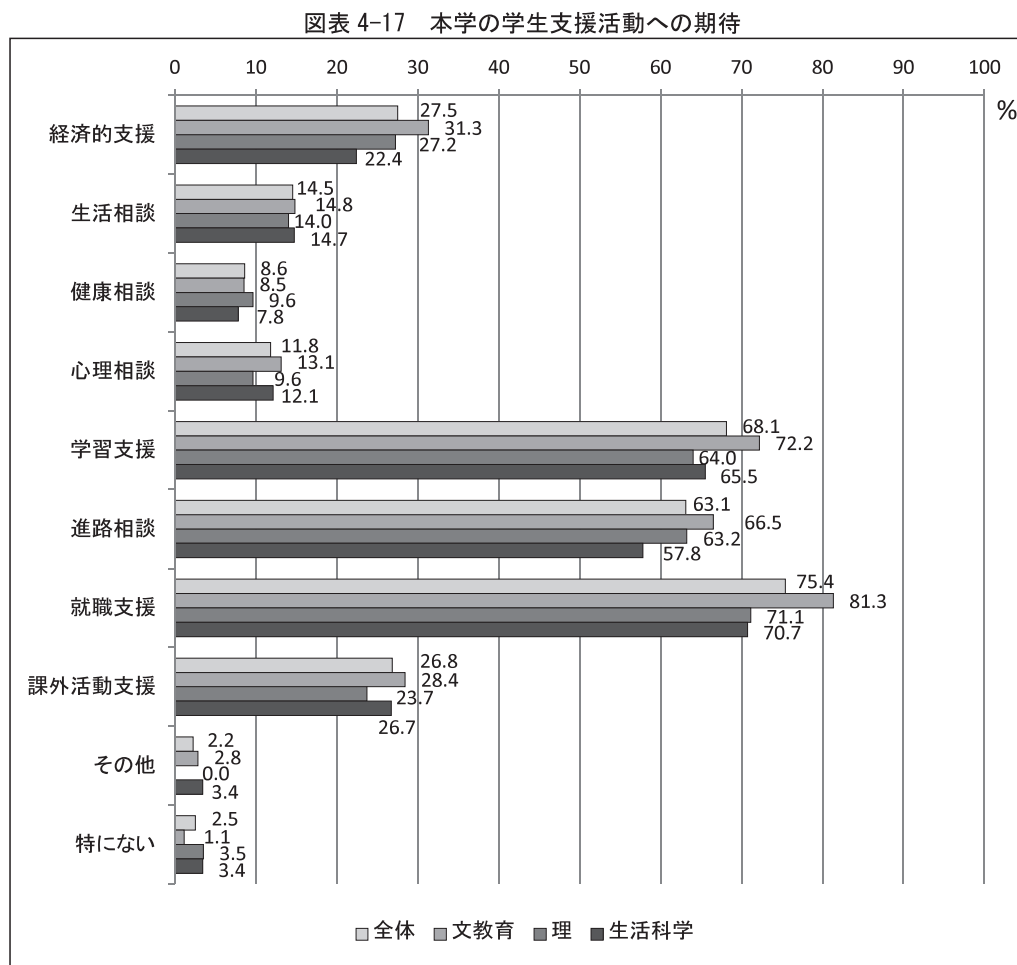


平成24年度新入生では4項目であったが（お茶の水女子大学2012, P27 参照）、今年度の新入生では「大学になじめるか」がそれに加わっている。

全体でみると「卒業後ちゃんと就職できるか」が79.4%と最も多く、「授業についていけるか」「充実したキャンパスライフを送れるか」「友達ができるか」が続く結果となっている。

⑪本学の学生支援活動への期待

図表 4-17 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。



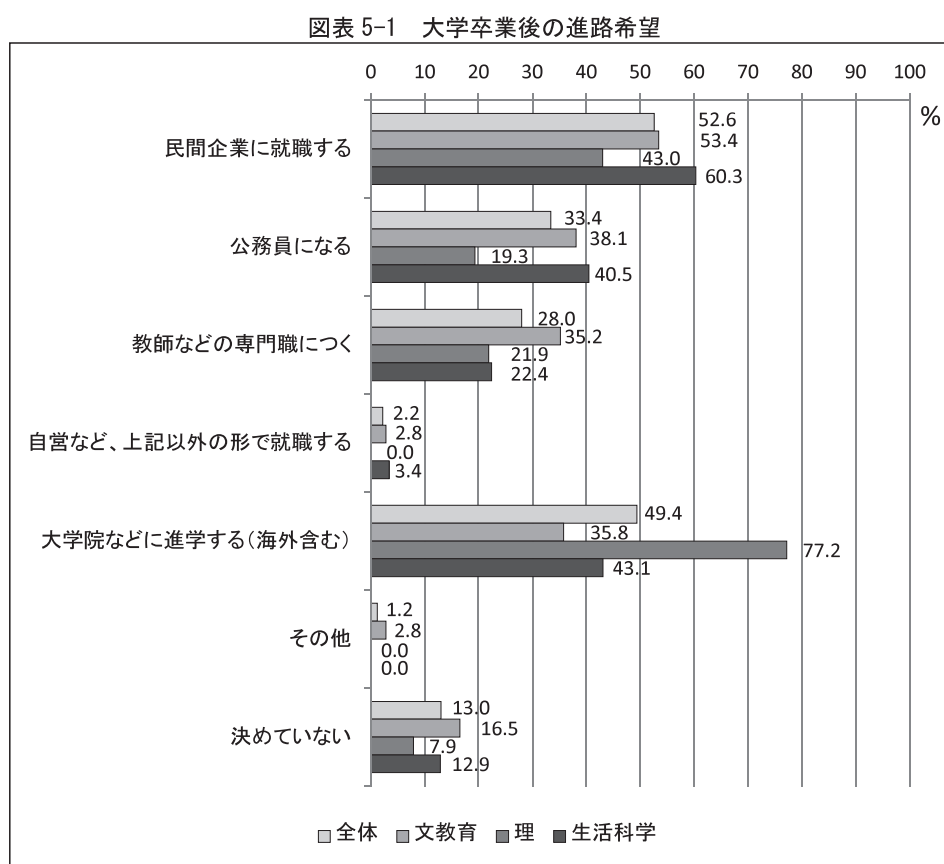
全体でみると、「就職支援」が 75.4%と最も多く、「学習支援」「進路相談」が 6 割を超えてそれに続いている。これらの支援の期待は、文教育学部での高さがいずれでも目立っている。

(5) 将来の進路

本節では、本学新入生の将来の進路について、①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与から示していく。

①大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。



全体でみると、「民間企業に就職する」が 52.6%、「大学院などに進学する（海外含む）」が 49.4%であった。ただし、「大学院などに進学する（海外含む）」に関しては、理学部では 7 割を超える一方で、生活科学部や文教育学部では 4 割程度といった学部による傾向もみられる。この傾向は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P30 参照）。

これらの進路希望に「公務員になる」「教師などの専門職につく」が続くが、この結果も平成 24 年度新入生と同様である（お茶の水女子大学 2012, P30 参照）。

また、「決めていない」は全体の 13.0%に過ぎないことから、本学の新入生は、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている学生が多数であることがわかる。この傾向も、平成 24 年度新入生と同様である（お茶の水女子大学 2012, P30 参照）。

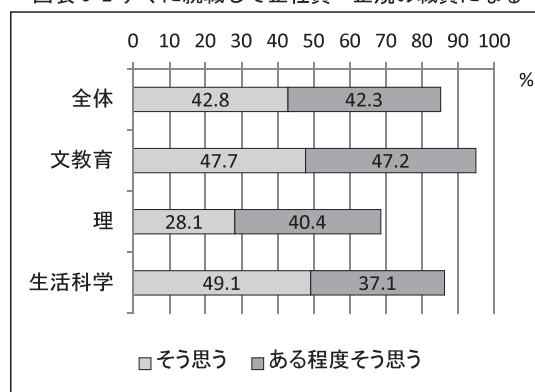
②大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示し

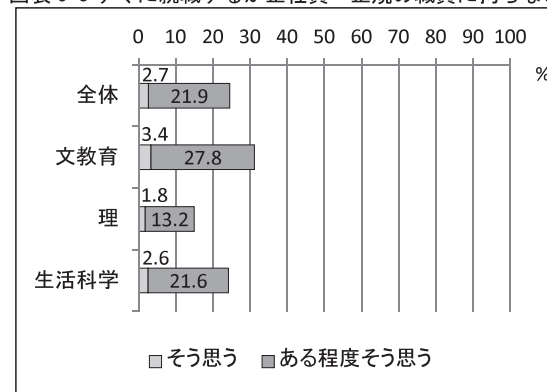
た結果が、図表 5-2 から図表 5-10 である。

まず図表 5-2 から図表 5-5 は、「卒業後の就職」について尋ねた 4 項目についての結果である。

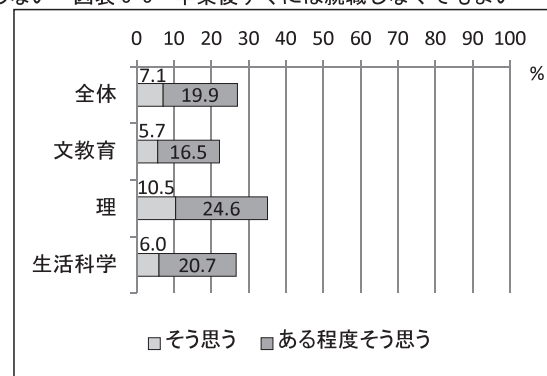
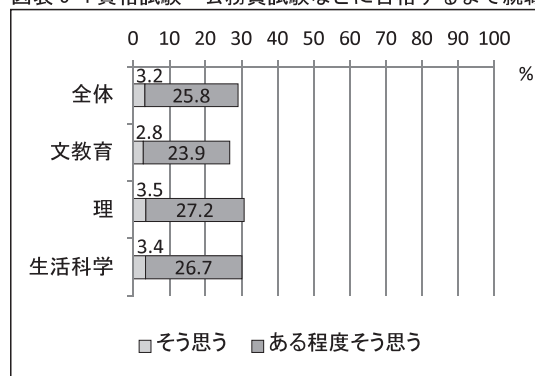
図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない



図表 5-4 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない 図表 5-5 卒業後すぐには就職しなくてもよい



平成 24 年度新入生同様、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は学部による差異が示されている（お茶の水女子大学 2012, P31 参照）。

学部別にみると、理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」が低く、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」が高い傾向がみられる。この傾向も平成 24 年度新入生同様である（お茶の水女子大学 2012, P31 参照）。

「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」84.7%、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」37.7%、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」31.8%、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」30.8%であり、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」の本学新入生の該当率の低さ、換言すれば、大学卒業後すぐの正規雇用志向がうかがえる。

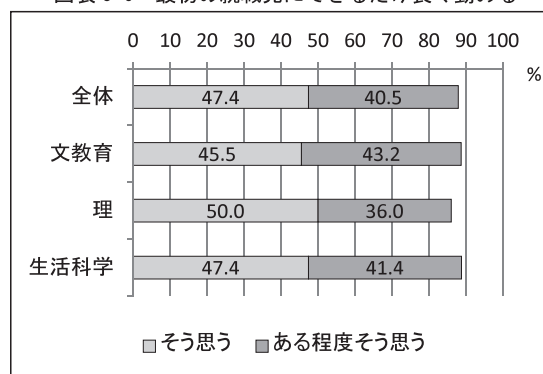
続いて、図表 5-6 から図表 5-8 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた 3 項目についての結果である。

いずれの項目も学部による大きな差異はみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」は全体のおよそ 9 割に及んでいる。その一方で、「何年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は 3～4 割にとどまっており、「そう思う」との回答は極めて少数であることも示されている。これらの結果は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P32 参照）。

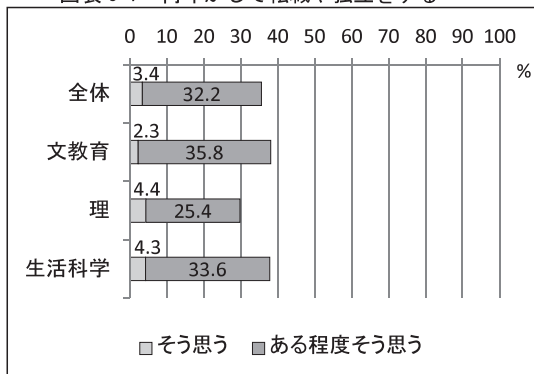
「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「最初の就職先にできるだけ長く勤め

る」83.3%、「何年かして転職や独立をする」55.1%、「結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）」38.1%であり、「何年かして転職や独立をする」の本学新入生の該当率の低さ、換言すれば、安定志向がうかがえる。

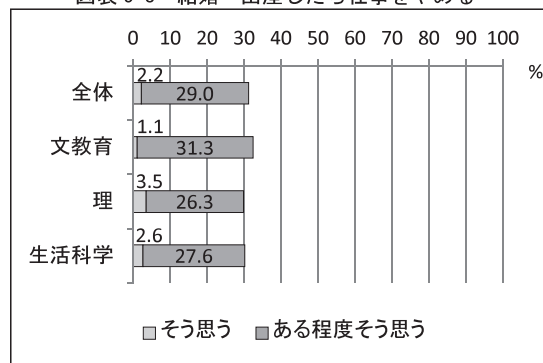
図表 5-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



図表 5-7 何年かして転職や独立をする

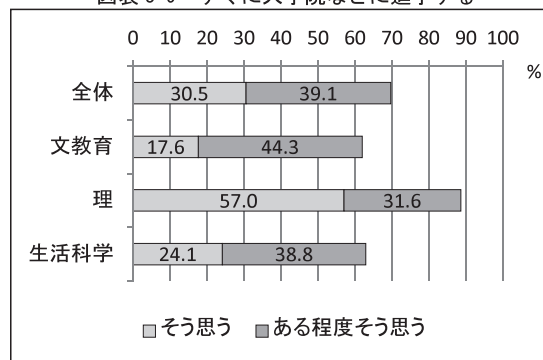


図表 5-8 結婚・出産したら仕事をやめる

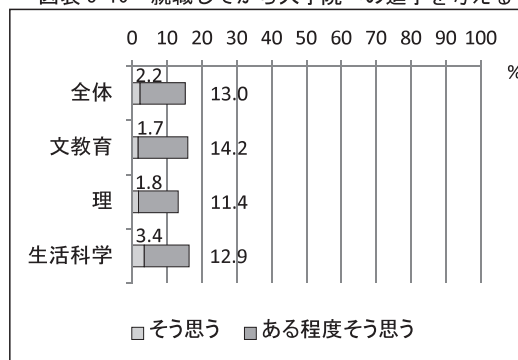


最後に、図表 5-9 および図表 5-10 は、「卒業後・就職後の大学院進学」について尋ねた 2 項目についての結果である。

図表 5-9 すぐに大学院などに進学する



図表 5-10 就職してから大学院への進学を考える



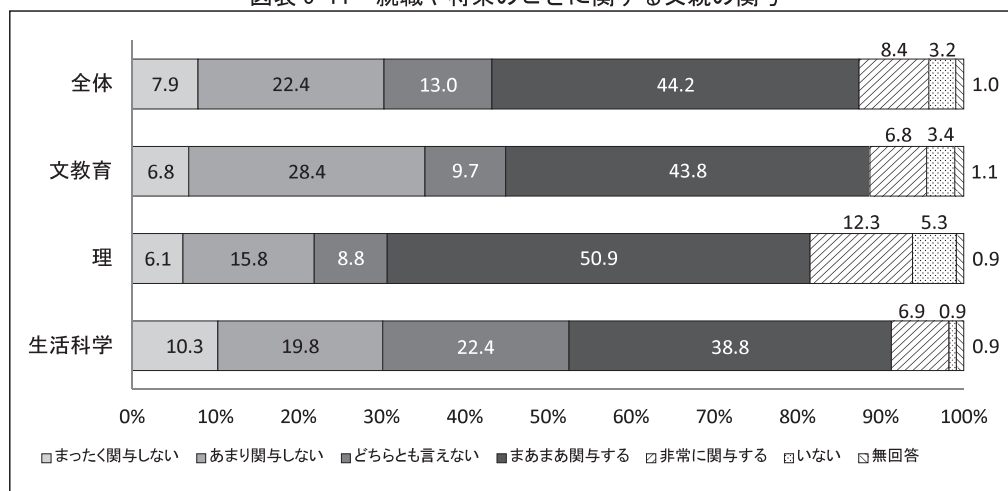
「すぐに大学院などに進学する」は、全体のおよそ 7 割であるが、理学部は他学部比べて明らかに高い。これに対し「就職してから大学院への進学を考える」は、学部による大きな差異はみられなかった。これらの結果は、平成 24 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P32 参照）。

「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに大学院などに進学する」45.7%、「就職してから大学院への進学を考える」26.3%であり、「すぐに大学院などに進学する」の本学新入生の該当率の高さがうかがえる。

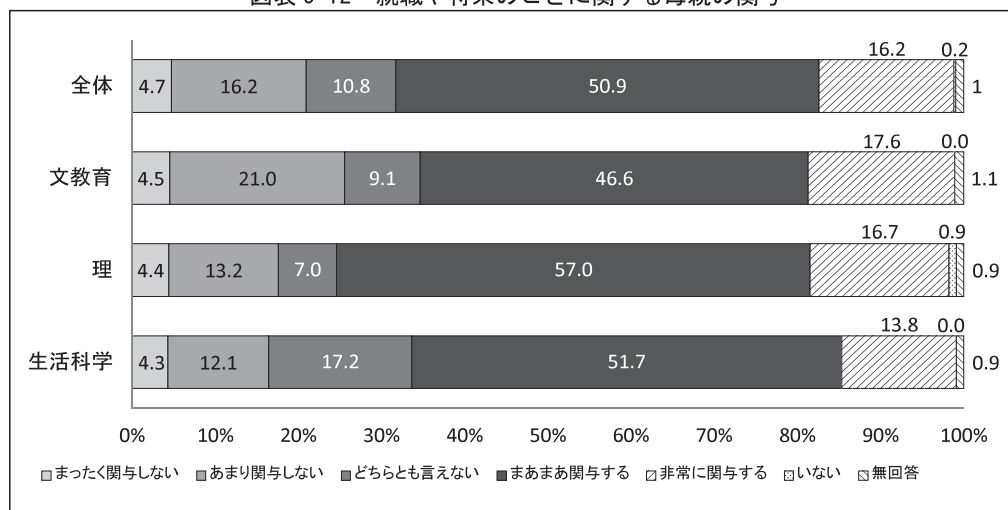
③就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関して、図表 5-11 は父親の関与を、図表 5-12 母親の関与を 5 件法で尋ねた結果である。

図表 5-11 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-12 就職や将来のことに関する母親の関与



本学の新入生は、就職や将来のことに関して、全体の半数以上が父親の関与があり（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」と回答）、全体のおよそ 2/3 が母親の関与がある。これらの結果は、平成 24 年度新入生でもほぼ同様に示されており（お茶の水女子大学 2012, P34 参照）、大学卒業後の進路に対する支援を行う際には、保護者の存在も視野に入れ、保護者とともに支援にあたるのが有益な支援につながると思われる。

平成 24 年度新入生では学部による大きな差異がみられなかったが（お茶の水女子大学 2012, P34 参照）、今年度の新入生では、特に理学部で、父親・母親ともに関与の程度が目立つ傾向もみられた。